

富田林市文化財調査報告55

平成26年度

富田林市内遺跡群発掘調査報告書

2015. 3

富田林市教育委員会

はじめに

富田林市は、市域の中心を石川が流れ、緑豊かな丘陵と美しい田園風景が調和した自然環境に恵まれたまちです。そのなかでも、中央部の石川とその支流によって形成された平野部は、遺跡も多く存在することから、古くから人びとの営みが行われていたことがわかっています。

しかし、このような事実の蓄積は、多くの開発の中から生まれてきたものであり、発掘調査による新たな発見と引き換えに、遺跡の破壊がなされてきたことを看過することはできません。

本書は、平成26年に実施した緊急発掘調査の成果をまとめたものです。これらを次の世代に引き継ぐために、発掘調査で得られた見地を有効に活用されることを、望んでやみません。

最後になりましたが、調査および本書の刊行にご協力いただきました地元住民のみなさまや関係各位に、厚くお礼を申し上げます。

平成27年3月

富田林市教育委員会
教育長 堂山博也

例 言

1. 本書は、平成26年度国庫補助事業「市内遺跡緊急発掘調査事業」の報告書である。
2. 本事業は、富田林市教育委員会文化財課が、平成26年4月1日から平成27年3月31日にかけて実施した。現地調査および整理作業は、同課職員 中辻 亘、辻 匡彦、角南辰馬、同課非常勤職員 水久保祥子、粟田 薫が担当し、同課非常勤職員 桑本彰子がこれを補佐した。
3. 本書には、整理作業等の都合から、平成26年12月31日までに現地調査が終了したものを掲載した。
4. 本書の作成にあたっては、執筆および編集を角南が行い、水久保がこれを補佐した。
5. 平成26年の現地調査および整理作業には、以下の者の参加を得た。(敬称略)
板坂信治、土山賢代、土山寧々
6. 本書で使用する標高は、東京湾標準潮位(T.P.)で表示している。また、現地調査における土色の色調は、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編)を使用した。

目 次

第1章 平成26年の調査状況	1
第2章 若松町一丁目における調査	
第1節 調査の経緯と経過	4
第2節 調査の成果	4
第3章 大字伏見堂における調査	
第1節 調査の経緯と経過	6
第2節 各トレンチの成果	8
第3節 まとめ	8

挿 図 目 次

図1 市内遺跡分布図	3
図2 調査位置(S=1/3,000)	4
図3 土層断面図(S=1/40)および配置図(S=1/200)	5
図4 調査位置(S=1/3,000)	6
図5 土層断面図(S=1/40)および配置図(S=1/1,000)	7

表 目 次

表1 発掘届(通知)受理件数	1
表2 発掘調査一覧	2
表3 試掘調査一覧	2

図 版 目 次

- 図版 1 若松町一丁目
 (上) トレンチ近景(南から)
 (下) トレンチ西壁土層断面(南東から)
- 図版 2 大字伏見堂
 (上) 1 トレンチ近景(北から)
 (下) 1 トレンチ西壁土層断面(北東から)
- 図版 3 大字伏見堂
 (上) 2 トレンチ近景(南東から)
 (下) 2 トレンチ北壁土層断面(西から)
- 図版 4 大字伏見堂
 (上) 3 トレンチ近景(東から)
 (下) 3 トレンチ北壁土層断面(西から)

第1章 平成26年の調査状況

平成26年1月から12月において、文化財保護法第93条・第94条に基づく発掘届・発掘通知は、表1のとおりであった。件数は前年度に比べると約40件減少しているが、前年度は大規模宅地造成に伴う分譲住宅で大幅に増加していたため、傾向としては前々年度の状況に戻ったとみてよい。

さて、平成26年に国庫補助事業として実施したのは2件で、いずれも周知の埋蔵文化財包蔵地外における試掘調査である。これは、開発行為中に遺跡が新規発見されるのを未然に防ぐことなどを目的として、富田林市開発指導要綱に基づき、事業者の理解と協力を得ながら行っているものである。次章以降に報告したとおり、今回は新たな遺跡の発見はなかった。しかし、市内の埋蔵文化財を正確に把握するためにも、包蔵地内での事前確認調査（本市において「試掘調査」は、包蔵地外の確認調査のみに使用し、これと区別している）とあわせて、地道にデータを蓄積していくことが重要と考えている。

表1 発掘届（通知）受理件数

	発掘届出(93条)					発掘通知(94条)				合計
	事前	立会	慎重	遺憾	小計	事前	立会	慎重	小計	
道路							1	1	2	2
鉄道										
空港										
河川										
港湾										
ダム										
学校										
宅地造成	2		1		3					3
個人住宅	5	17	11		33					33
分譲住宅			10		10					10
共同住宅	3				3					3
その他住宅		3			3					3
工場	3				3					3
店舗		2	2		4					4
その他建物	5	2	2		9	1			1	10
土地区画整理										
公園造成						1			1	1
ゴルフ場										
観光開発										
ガス			29		29					29
電気		1	7		8					8
水道							7		7	7
下水道							1		1	1
電話通信			3		3					3
農業基盤										
農業関係										
土砂採取										
その他開発		1	1	2	4					4
小計	18	26	66	2	112	3	9		12	124

表2 発掘調査一覧

番号	調査日	所在地	遺跡名	調査原因	調査面積 (㎡)	調査結果	担当者	調査記号
1	1月6日～ 1月10日	喜志町4丁目	喜志遺跡	その他建物(茶屋)	30	溝・土坑等を確認 (本調査)	角南	KS2013-1
2	1月20日～ 2月12日	桜井町2丁目	粟ヶ池遺跡	公園造成	128	溝・ピット等を確認 (本調査)	角南	AG2013-1
3	1月21日	中野町1丁目	中野北遺跡	その他建物(児童遊園施設)	26	遺構・遺物なし	水久保	
4	2月10日	木戸山町	喜志遺跡	宅地造成	15	遺構・遺物なし	水久保	
5	3月4日	喜志町4丁目	喜志遺跡	店舗	1.6	遺構・遺物を確認	角南	KS2014-1
6	3月19日	喜志町2丁目	喜志西遺跡	店舗	4	遺構・遺物なし	水久保	
7	3月28日	中野町3丁目	喜志城跡・中野北遺跡	共同住宅	12.5	遺構・遺物を確認	角南	KSC2014-1
8	4月10日	錦織東3丁目	錦織南遺跡	個人住宅	2.96	溝・土坑等を確認(23の本調査)	角南・水久保	
9	4月24日	喜志町4丁目	喜志遺跡	店舗	2.1	ピットを確認(5の本調査)	角南	KS2014-1
10	4月28日	中野町5丁目	中野遺跡	個人住宅	0.96	遺構・遺物なし	角南・水久保	
11	5月9日	宮甲田町	新家遺跡	その他建物(集会所)	3	遺構・遺物なし	角南	
12	5月12日	川面町1丁目	桜井遺跡	個人住宅	2.6	遺構・遺物なし	角南	
13	5月15日	若松町西3丁目	新堂庵寺跡	店舗	3.6	遺構・遺物なし	水久保	
14	5月19日	中野町2丁目	中野北遺跡	その他建物(寺院)	4.9	ピット等を確認	角南	NNN2014-1
15	5月20日～ 6月20日	中野町3丁目	喜志城跡・中野北遺跡	共同住宅	250	ピット・溝等を確認 (7の本調査)	角南	KSC2014-1
16	6月12日	甲田2丁目	甲田遺跡	個人住宅	3.2	遺構・遺物なし	角南	
17	6月16日～ 7月31日	中野町2丁目	中野北遺跡	その他建物	248	ピット・土坑等を確認 (14の本調査)	角南	NNN2014-1
18	6月20日	大字左衛門	佐備川西岸遺跡	その他建物(倉庫)	9.9	遺構・遺物なし	角南	
19	8月19日	宮甲田町	新家遺跡	その他建物(診療所)	0.8	遺構・遺物なし	角南	
20	8月28日	喜志町3丁目	喜志西遺跡	共同住宅	12.6	跡・遺物等を調査(協賛中)	角南	
21	9月24日	桜井町1丁目	喜志西遺跡	分譲住宅	5.9	遺構・遺物を確認(協賛中)	角南	
22	10月7日	喜志町4丁目	喜志遺跡	共同住宅	8.6	遺構・遺物なし	角南	
23	11月28日	錦織東3丁目	錦織南遺跡	その他建物(倉庫)	13.5	遺構・遺物を確認	角南	NKS2014-1
24	12月10日～ 12月19日	錦織東3丁目	錦織南遺跡	その他建物(倉庫)	25.1	洗路等を確認 (23の本調査)	角南	NKS2014-1

表3 試掘調査一覧

番号	調査日	所在地	調査原因	調査面積 (㎡)	調査結果	担当者	備考
1	3月12日	北大伴1丁目	分譲住宅	—	遺構・遺物なし	水久保	工事立会
2	3月24日	大字坂方	店舗	2	遺構・遺物なし	水久保	
3	4月18日	宮町2丁目	店舗	3.7	遺構・遺物なし	角南	
4	5月7日	宮町2丁目	個人住宅	—	遺構・遺物なし	角南	工事立会
5	6月6日	錦織北3丁目	店舗	2.9	遺構・遺物なし	水久保	
6	7月23日	中野町東2丁目	その他建物(倉庫)	4.6	遺構・遺物なし	角南	
7	8月25日	喜志新家町2丁目	個人住宅	—	遺構・遺物なし	水久保	工事立会
8	9月1日	舟町1丁目	共同住宅	3.6	遺構・遺物なし	角南	
9	10月31日	大字橋	個人住宅	—	遺構・遺物なし	水久保	工事立会
10	11月25日	甲田1丁目	店舗	6.7	遺構・遺物なし	角南	
11	12月18日～ 12月22日	大字伏見堂	その他建物(病院)	6.4	遺構・遺物なし	角南	
12	12月24日	若松町1丁目	店舗	8	遺構・遺物なし	角南	

第2章 若松町一丁目における調査

第1節 調査の経緯と経過

今回の調査地は、富田林市若松町一丁目1229番地の1ほかに位置し、周知の埋蔵文化財包蔵地外である。南側は東高野街道および寺内町北遺跡に接しており、地形的には西側の羽曳野丘陵から派生した中位段丘上にあたる。

この場所は北半分が市営住宅の緑地帯、南半分が店舗の駐車場となっている。ここに改良店舗の建て替え工事が計画されたことから、担当部局と調整を重ね、平成26年11月27日付で提出された試掘調査依頼書に基づき、同年12月24日に試掘調査を実施した。トレンチは緑地帯部分に、南北長10m、幅80cmで設定した。なお、調査の掘削および埋め戻し作業は、バックホウと人力を併用している。

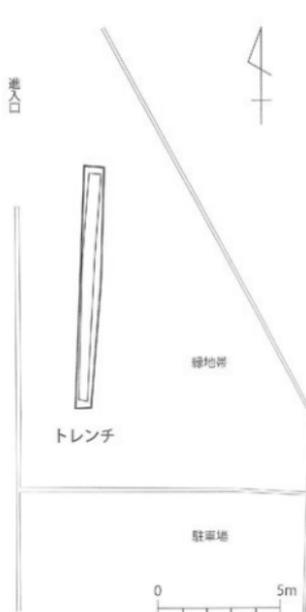
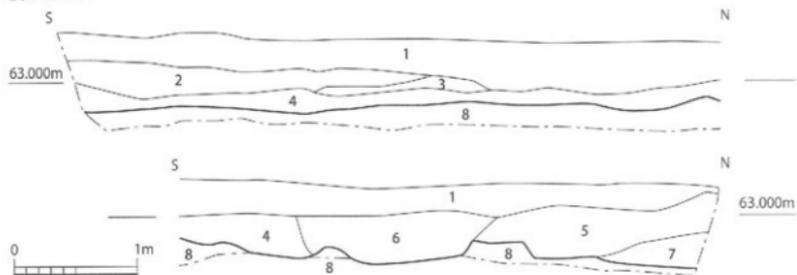
第2節 調査の成果

盛土を取り除くと、南端から3mまでの範囲には旧表土が残っており、北端から3.5mまでの範囲はコンクリート片や瓦片を含む攪乱（土層番号5および6）が広がっていた。現況面から地山面までの深さは平均で-60cmであり、地山の最も高い部分の標高は約62.85mであった。



図2 調査位置 (S=1/3,000)

地山面で遺構検出を行ったが、遺構は認められず、近世以降とみられる瓦片を除けば遺物も出土しなかった。また、遺跡の存在をうかがわせるような堆積層も確認できなかった。これらの状況から、工事による埋蔵文化財への影響はないと判断したが、遺跡の広がりを議論するだけの材料はまだ揃っていない。今回の調査地の北側には、飛鳥時代とみられる陶硯が出土した畑ヶ田南遺跡や、神功開寶5枚を入れた土師器壺の埋納遺構が見つかった畑ヶ田遺跡があり、官衙的要素をもつ集落が一带に展開していたことが分かっている。その南限はまだ掴めておらず、今後も周辺調査を積み重ねていく必要がある。



1. 盛土
2. 旧表土
3. 10YR 6/4 にぶい黄橙色粘質土
4. 10YR 5/2 灰黄褐色粘性砂質土
5. 攪乱
6. 攪乱
7. 7.5YR 5/8 明褐色粘質土に
10YR 5/3 にぶい黄褐色粘質土がまじる
8. 7.5YR 5/8 明褐色砂礫【地山】



図3 土層断面図 (S=1/40) および配置図 (S=1/200)

第3章 大字伏見堂における調査

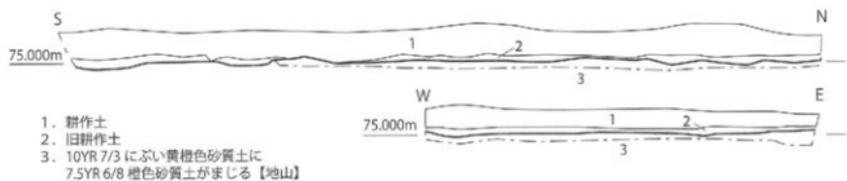
第1節 調査の経緯と経過

今回の調査地は、富田林市大字伏見堂96-1ほかに位置し、周知の埋蔵文化財包蔵地外である。嶽山から西側に向かって舌状に張り出す地形の先端部分で、東側は西野々古墳群に接している。沖積層と低位段丘の変換点にあたり、敷地内には約7mの高低差をもつ段差が存在する。

この場所において、南側に隣接する汐の宮温泉病院の建て替え工事が計画され、平成26年10月30日付で試掘調査依頼書が提出された。ただちに協議を行い、埋蔵文化財の有無を確認することを目的とした試掘調査を実施することになった。



図4 調査位置 (S=1/3,000)

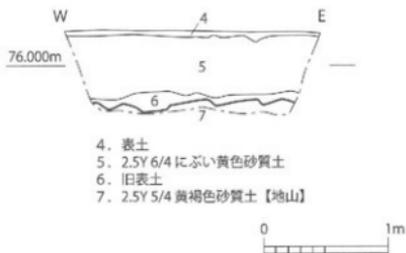


1. 耕作土
2. 旧耕作土
3. 10YR 7/3 にぶい黄褐色砂質土に
7.5YR 6/8 増色砂質土がまじる【地山】

1トレンチ西壁および北壁



3トレンチ北壁



2トレンチ北壁

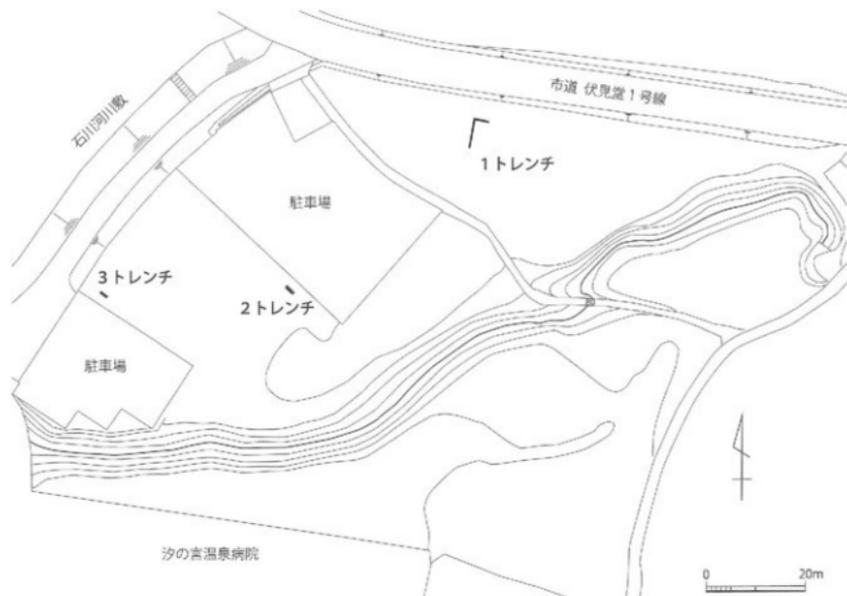


図5 土層断面図 (S=1/40) および配置図 (S=1/1,000)

試掘調査に先立ち、同年11月6日に踏査を行ったが、対象地の大部分は竹が繁茂しており、立ち入るのもままならない状況であった。この状況をふまえて、沖積層範囲において竹林の空白地である3箇所を選定し、それぞれトレンチを設定して調査することにした（1～3トレンチ）。

試掘調査は同年12月18日、19日、22日の3日間で行った。この際は仮の基準点を設けて実測作業を行い、翌年の平成27年1月7日に水準点測量を行って調査完了となった。なお、調査の掘削および埋め戻し作業はバックホウの搬入が困難であったことから、すべて人力で行っている。調査面積は6.4㎡である。

調査にあたっては、汐の宮温泉病院に趣旨をご理解のうえ、多大なご配慮をいただいた。ここに記してお礼申し上げます。

第2節 各トレンチの成果

1 トレンチは、幅50cm、南北長6.2m、東西長3.2mのL字形で設定し、深さ最大35cmまで掘削した。土層の状況は地表面から順に、耕作土（層の厚さ20cm）、床土（同5cm）であり、現況面から-25cmで地山面となる。地山面の標高は約75mである。地山はにぶい黄橙色砂質土を主体とするものであった。遺構、遺物は認められなかった。

2 トレンチは、隣接する駐車場に沿って長さ2.1m、幅50cmで設定し、深さ最大65cmまで掘削した。土層の状況は地表面から順に、表土（層の厚さ5cm）、近代のゴミ等を含むにぶい黄色砂質土（同45cm）、旧表土（同10cm）で、現況面から-60cmで地山面となる。旧表土上の厚い層は、駐車場の擁壁を設置する際に盛られたものかもしれない。地山面は標高約75.7mで、あまり堅固でない黄褐色砂質土を主体とするものであった。遺構、遺物は認められなかった。

3 トレンチについても、隣接する駐車場に沿って長さ1.8m、幅50cmで設定し、深さ最大80cmまで掘削した。土層の状況は地表面から順に、表土（層の厚さ5cm）、にぶい黄色砂質土（同15cm）、旧表土の可能性のある灰黄褐色砂質土（同25cm）で、現況面から-45cmで地山面となる。地山面は2層に分けているが、竹の根による攪乱を受けているか否かの違いである。地山面の標高は約75.6mで、2トレンチと同様、あまり堅固でない黄褐色砂質土を主体とするものであった。遺構、遺物は認められなかった。

なお、試掘調査時には竹の伐採が一部で行われており、11月の踏査時に比べると表面観察がしやすい状態であったため、再度踏査も行った。それでも十分なレベルの調査ではなかったが、古墳等の存在を示唆するような隆起は確認できなかった。

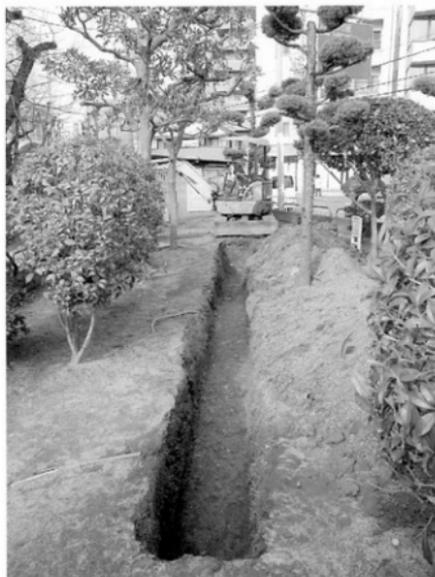
第3節 まとめ

今回の試掘調査は、対象地の現況等による制約から沖積層部分のみとなった。遺構・遺物は全く確認できず、遺跡の存在をうかがわせるような堆積層も認められなかった。先述したように、東側には西野々古墳群が接しており、遺跡範囲が今回の調査対象地を含めた低位段丘上のどこまで広がるのが課題として挙げられる。従来の見解を再考するための材料は見出せなかったが、今後も周辺調査を積み重ねていく必要があるだろう。

報告書抄録

ふりがな	へいせい26ねんど とんだばやししいせきぐんはつくつちようきほうこくしょ							
書名	平成26年度 富田林市内遺跡群発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	富田林市文化財調査報告							
シリーズ番号	55							
編著者名	角南辰馬							
編集機関	富田林市教育委員会							
所在地	〒584-8511 大阪府富田林市常盤町1番1号 TEL.0721-25-1000(代)							
発行年月日	2015(平成27)年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いせきがい (遺跡外)	とんだばやし 富田林市 わかまつちようきほう 若松町一丁目	27174		34° 30' 9"	135° 36' 14"	2014.12.28 ~ 2015.01.07	8	試掘調査
いせきがい (遺跡外)	とんだばやし 富田林市 おおあざふしみどう 大字伏見堂	27174		34° 28' 22"	135° 34' 50"	2014.12.24	6.4	試掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
(遺跡外)				なし		なし		
(遺跡外)				なし		なし		

圖 版



(上) トレンチ近景
(南から)

(下) トレンチ西壁土層断面
(南東から)



(上) 1トレンチ近景
(北から)



(下) 1トレンチ西壁土層断面
(北東から)



(上) 2トレンチ近景
(南東から)



(下) 2トレンチ北壁土層断面
(西から)





3トレンチ近景（東から）



3トレンチ北壁土層断面（西から）

平成26年度富田林市内遺跡群発掘調査報告書

発行年月日	2015年3月31日
編集・発行	富田林市教育委員会
住 所	富田林市常盤町1番1号
印 刷	明朗社

